

平成 29 年度 事業報告書

〔自 平成 29(2017)年 4 月 1 日 至 平成 30(2018)年 3 月 31 日〕

当財団は、「美濃焼」をかけがえのない地域資源と位置付け、それを活用した地域の産業・文化・観光の振興に取り組むことを「目的」とする。そのために、具現化すべき「経営理念」と、職員がとるべき「行動指針」を以下の通り定め、各種事業の完遂に努めた。

財団目的

地域に根付く美濃焼を活用し、岐阜県東濃西部地域の産業、文化及び観光の振興に寄与する。

経営理念

- (1) 美濃焼産業の振興
美濃焼のブランド力の向上と市場開拓に寄与します。
- (2) セラミックパークMINOの活性化と運営の健全化
貸出施設の稼働率の向上と徹底した運営経費削減により、健全経営を推進します。
- (3) 地域観光の振興
岐阜県現代陶芸美術館（以下、「美術館」）の運営を支援し、地域の産業観光の拠点として、施設の魅力造と観光客の増大を推進します。

行動指針

- (1) “安全、安心、快適”な環境整備
- (2) “自主性、責任感、使命感”を旨とした勤務態度
- (3) “スピード、挑戦、やり抜く”業務推進力

1 施設の運営・催事誘致活動及び利用者サービス向上の取組み

セラミックパークMINOが美濃焼を活用した産業振興及び文化・観光振興の拠点となるべく、にぎわいと魅力ある施設の運営、利用者サービスの向上などに努めた。特に本年度は「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」が開催され、施設内の掲示物、必要設備の整備やスタッフ対応の充実に努めた。

(1) 施設稼働率の向上に向けた取組み

「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」の開催のため、例年に比べて概ね高い稼働率となった。しかし一方で、3年ごとに開催するフェスティバルをピークとした稼働率の推移が定型化している。大きな注目を集めるフェスティバルを、「貸し施設としてのセラミックパークMINO」をPRする好機として、稼働率向上に向けた以下の取組みを行った。

ア 近隣都市を中心に広告代理店及びそのクライアントに対しDM等による施設紹介を行い、貸館利用に係る需要の掘り起こしに努めた。

イ 貸館施設の利用者には、懇切丁寧な利用支援を行うとともに、今後の利用予定を聞

き取り、仮予約など更なる継続利用に結びつくよう努めた。

ウ 施設利用の問い合わせや利用者アンケート、聞き取りなどにより、利用者の要望等を把握し、利用者に使いやすい施設となるように努めた。また、茶室や各メッセ施設の利用希望者には、要望に応じて案内するなど、懇切丁寧な説明を心掛けた。

□施設別稼働率・施設使用料収入・来館者数の実績

施設別稼働率	目標稼働率	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
展示ホール	50 %	52.4 %	42.6 %	35.3 %
国際会議場	30 %	27.3 %	21.7 %	28.1 %
イベント ホール	50 %	39.3 %	34.3 %	36.7 %
小会議室	60 %	44.8 %	37.9 %	42.2 %
茶 室	30 %	21.2 %	14.2 %	12.5 %
屋上広場	20 %	28.7 %	25.9 %	22.8 %
施設使用料収入		37,706 千円	32,469 千円	30,165 千円
来館者数 (施設全体)		250,259 人	223,993 人	248,052 人

(注) 稼働率は、該当施設年間利用日数／年間開館日数により算出

(2) 来館者満足度の向上に関する取り組み

来館者に親しまれ、リピーターとなっていただける施設づくりを進めるため、以下のとおり来館者サービスを実施した。

ア 総合案内サービス

年末年始及び毎週月曜日を除いて、ショップスタッフによる来館者向けの総合案内サービスを行った。主に美術館、作陶館、イベント会場等の当施設に関する案内や、近隣の観光施設、食事処の案内など、地域の観光やアフターコンベンションに関する情報提供を行った。

イ 回廊及びエントランスを「魅せる空間」として活用

回廊の壁面に設置した掲示板には、当施設や近隣公共施設等で開催する催事の告知ポスターを貼り、加えて、エントランスでは美濃焼に関する催事、近隣観光施設のパンフレットや観光情報誌、食事処の案内等を常置し、地域の情報発信の場として活用した。

また、アルコープでは陶磁器作品を展示し、美濃陶芸や「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」のPRに努めた。特に「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」開催期間中は、回廊全体を模様替えし、フェスティバル関連企画として「登り窯」の展示や、美濃焼企業による新作展示とそのコンペティション会場として活用した。

ウ アンケート調査の実施

職員の対応等や施設運営に関するアンケート調査（来館者・施設利用者の2種類）を実施し、来館者サービスの向上と良好な施設利用環境の整備に努めた。

エ スタッフ勉強会の開催

ショップスタッフを対象に、地域の観光情報やお客様への対応力を養う目的で、スタッフ勉強会を開催した。

(3) セラミックパークMINO作陶館の運営

美濃焼文化の根付く地域の特色を活かし、幅広い層の来館者に陶芸文化の素晴らしさを伝える作陶体験施設運営の推進に努めた。

毎週金・土・日は、観光客などの日帰り客を対象とした、気軽に参加できる作陶、上絵付けの各体験コースを開設するとともに、国際会議場など施設内スペースを有効活用し、弾力的な人員配置により、積極的に団体客の受け入れにも対応した。作陶体験には、そばちょこや麵鉢など四季折々の作品制作の企画なども取り入れた。

また、ビギナーから経験者までを対象に、年間作陶講座を開設し、毎週火・水・木の講座でロクロ、釉掛けなどのきめ細かい指導を行った。

特に、今年度は国際陶磁器フェスティバル共催事業として、上絵付け体験やセラート（陶器の折り鶴）制作体験を行い、充実した内容での実施に努めた。

[年間講座：38人、6講座/週、各35回/年開催]

[国際陶磁器フェスティバル事業の体験は7回開催]

□利用実績

	平成29年度	平成28年度	平成27年度
講座参加者	1,273人	1,092人	1,214人
その他(1日体験コースなど)	3,656人	3,564人	4,089人
合計	4,929人	4,656人	5,303人
事業収益	5,184千円	4,860千円	5,435千円

(4) 岐阜県現代陶芸美術館の運営支援

観光施設としての付加価値を高める要素として、また、県民への陶芸美術の涵養と陶磁器産業の振興に資するため、美術館の運営管理を支援した。

ア 美術館の運営諮問機関である美術館協議会委員に、当財団事務局長が就任した。

イ スタッフ間で意見交換会を設け、施設全体で改善活動に取り組んだ。

ウ 毎月、財団の発行する「イベントカレンダー」に美術館の催事情報を掲載し、広報活動に協力した。

エ 作陶体験施設や施設内の付帯設備を活用し、ワークショップ等の開催に協力した。

オ 「陶芸作家展」会場内に、美術館の催事案内チラシ、イベント開催チラシを設置し誘客に努めた。

(5) 事業の開催支援業務

自主企画事業開催で培った経験を基に、各種イベント主催者に対し、新規事業や既存

事業の企画アドバイスや、会場設営、撤去などの業務支援を行った。

手厚い業務支援サービスを行うことにより、新規顧客、継続顧客の需要を掘り起こし、施設の稼働率、収益性、集客力の向上を目指した。

(6) スタッフ勉強会の開催

施設利用者に対する災害時の避難誘導を迅速に行えるよう、避難経路の確認や消火機器の使い方に関する講習会を行った。そのほか、常日頃からスタッフ全員が対応できるよう、施設の貸出しの手順、機器の取扱い、施設案内の際の注意事項などを確認した。

2 自主企画事業の実施及び地場産業の振興に向けた取り組み

セラミックパークMINOの主たる設置目的である陶磁器産業・文化及び観光の振興を視점에、次の事業を中心に実施した。また、秋開催の「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」のPRコーナーを、各事業の会場内に設置するなど事前の開催告知に努めた。

(1) 陶芸作家展 2017

「美濃陶芸文化の発信」を目的に、美濃の地を代表する陶芸作家の作品を紹介した。人間国宝から若手作家に至るまで、幅広い作家層への出品要請のもと、展覧会与販売会の要素を兼ね備えた、当地でしか開催できない高い独自性と品質を備えた内容で開催した。

今回も、この地から広く陶芸文化の魅力発信し、新しい顧客の創造に努めるべく、作家の魅力を最大限に引き出す展示構成、他産地の陶芸家の招待出品による産地間交流企画など、陶芸作家が互いに切磋琢磨する出品環境と、来場者の満足度を高める催事構成を実現し、来場者、出品者双方より好評を博した

[開催日：平成29年5月3日(水・祝)～5月6日(土)]

□「陶芸作家展」実績

	出品者数	入場者数	売上高(陶磁器)
平成29年度	148名	9,975名	14,040千円
平成28年度	138名	9,786名	13,044千円
平成27年度	125名	9,421名	16,386千円

(2) 美濃焼インキュベーション事業

美濃焼産業の振興と美濃焼の市場開拓、新商品の開発を目的に「レクサスコレクション」に商品提案を行い、6アイテム(4メーカー)が新規に掲載された。日本を代表するラグジュアリーブランド「レクサス」とのコラボレーションのもと、製品開発と販売を行うことで、美濃焼及びそのつくり手のブランディングに寄与した。

(3) セラパーク楽々市

定期開催事業として、施設稼働率の向上及び施設のにぎわい創出に加え、陶磁器産業やその他の地元小売業等の出店による地域活性化を目的として開催した。

2004年8月からの継続的な開催実績に加え、構成催事である「骨董市」（民間主催）との更なる連携強化を図り、集客増加に努めた。

また、新規出店者を継続的に募ると共に、ミニイベントや“ありがとう感謝祭”（半期に一度開催）などの付随企画を効果的に実施することで、本催事の価値を高め、より魅力的な企画内容を目指した。

運営については、出店者から選出されたメンバーで構成する運営委員会の更なる機能強化を図り、出店者によるより自主的な運営を目指した。

[毎月第4日曜日とその前日の土曜日、年間10回開催]

(4) 青空マルシェ

本年度からセラパーク朝市を「青空マルシェ」と名称変更し、セラパーク楽々市の構成催事として同日に開催した。

東濃地域の採れたて野菜や加工品を中心に販売するとともに、つくり手の顔を見て直接買う販売形態は会話をして買い物をするという買い物本来の楽しさを呼び起こし、地元住民を中心に好評を得ることができた。さらに、月替わりで、こども向けイベントを開催し、地元の親子連れを中心とした幅広い世代の来場を図り、地域の活性化に寄与した。

※ 『セラパーク楽々市』は、「あきんど市」（財団主催）、「青空マルシェ」（財団主催）、「骨董市」（民間主催）の総称。

(5) 地域の陶磁器産業界及び陶芸界との連携

自主企画事業の「陶芸作家展」や美濃焼インキュベーション事業の実施、「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」への参画を通じて、陶芸家や美濃焼産業界との連携を深めた。

また、セラミックパークMINOの稼働率や魅力向上を目的に、岐阜県及び多治見市、瑞浪市、土岐市の各自治体や陶磁器関係団体からなる「利用促進協議会」を開催した。

(6) 15周年事業の実施

本年度はセラミックパークMINO開館から15周年を迎え、さらなる施設としての活性化、美濃焼産業の発展及び周辺住民の利用満足度向上のため、次の3つの特別事業を展開した。

① 秋の陶芸作家特別展

「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」の協賛事業として、セラミックパークMINOとゆかりの深い作家にオリジナル新作製品の制作を依頼し、9月は「国際会議場」、10月はホワイエにて展示し、作品の即売もできる形式で開催した。

開催日時	出展作家数	来場者数
平成29年 9月17日(日)	30名	616名
平成29年 9月18日(月・祝)	30名	576名
平成29年10月21日(土)	13名	516名
平成29年10月22日(日)	13名	450名

②セラパーク秋のこどもフェスティバル [9月3日(日)]

ジブリソングで有名な「井上あずみ」と地元合唱団「多治見少年少女合唱団とシニアコア」のファミリーコンサート(有料500円・国際会議場)をメインに、屋上広場での作陶体験、絵つけ体験、蒸気機関車乗車、フワフワ遊具、ボールプール、消防車・パトカー乗車体験など大規模なイベントを実施した。

[開催日：平成29年9月3日(日)]

総来場者数	2,784名
うち有料コンサート人数	287名(うち関係者54名※)

※有料コンサート参加者のうち、54名は関係者招待分

※チケット販売目標250枚の目標に対し、233枚でほぼ目標を達成した。

③あおぞらわんぱくランド

子供が青空の下で自然を満喫し、のびのびと音楽やワークショップに触れあえる企画を立案。NHK「おかあさんといっしょ」を卒業して間もない11代目うたのおにいさん「横山だいすけ」氏を招聘し、ミニコンサートを実施した。

当日は併せて絵付け体験とフワフワトランポリンも実施し、参加した親子からも好評を得たが、作陶体験やボールプールなどの予定は混乱と事故防止の為、中止とした。

[開催日：10月8日(日)]

[公演 2回、各公演900名の完全招待制]

優先エリア入場券および通常入場券を以下のように配布した。

国際陶磁器フェスティバル美濃ぐるっとパス購入者	8月13日(日)10:00～ 先着200名を対象に配布 1枚購入ごとに優先エリア入場券2枚まで配布 即日完売
作陶館での絵付け体験電話予約	7月28日(金)10:00～ 電話受付開始 予約1名に対し、優先エリア入場券1枚を配布 (体験期間：8月18日(金)～27日(日)) 219名分を40分で完売
往復ハガキでの応募	応募者の中から、抽選により各回700名を招待 応募総数 7,621通(23,626名) ※全国から応募が殺到し、往復ハガキのみの当選確率は18.53倍となった。

3 施設としての魅力創造

多様な魅力を備えた施設を最大限に活用し、来館者の増大につなげるため以下の取組みを実施した。

(1) ショップ&ギャラリーMI-NOの運営

来館者に対して美濃焼を魅力的に展示販売することを目的に、以下の内容を実施し、店舗運営に努めた。

ア 新作の動向を素早く反映させた、陶磁器産地ならではの魅力的な品揃えに努めた。

イ ディスプレイには、四季折々の変化と行事を取り入れ、常に食卓目線を意識した器の組み合わせなど提案しながら商品展示を行った。

ウ ギャラリーコーナーではテーマを決めた企画展を実施し、陶磁器のみならず異素材（ガラス、イラストなど）のクラフト作品等の展示販売を行った。

[企画展 9回実施]

エ インターネットを活用した販売促進活動を行った。

オ お客様への声掛けを基本とし、安心して買い物ができる雰囲気づくりに努めた。

カ 器の使い方、美濃焼の説明等をお客様に説明できるようスタッフの習熟度を高めた。

キ お客様リストに基づいた商品紹介や特典企画を実施し、リピーターの獲得に努めた。

□販売実績

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
売上目標	25,000 千円	17,000 千円	14,500 千円
売上実績	24,636 千円	17,437 千円	17,966 千円

(2) 自然観察会の開催及び里山の整備

希少植物“シデコブシ”など、施設をとりまく恵まれた自然環境を保全し、地域の自然を体感できる「里山憩いゾーン」を整備し、幅広い層への啓発に努めた。

① 親子で楽しむことができる体験参加型の自然観察会「森の観察会」と関連ワークショップを実施 [開催数 10回、延べ参加者 265名]

② 散策路の整備作業

③ 枯木、倒木などの間伐作業

(3) 飲食施設の委託運営事業の実施

来館者の満足度向上のため、専門業者に委託して喫茶スペースを展開した。

(4) 魅力ある観光コースの設定

美術館、作陶館、ショップ&ギャラリーMI-NO、飲食施設、里山散策など、施設の構成要素を組み合わせた楽しみ方を提案し、ホームページでのPRにより誘客に努めた。

特に「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」開催に伴い、その誘客企画に参画し施設

のPRに努めた。

4 施設の維持管理に関する事業

セラミックパークMINO全体を、お客様の目線で「安全・安心・快適」な環境となるよう整備すると共に、無駄な経費の削減に努めた。

(1) 施設の安全確認

職員による施設巡視を徹底し、目視による安全確認において確認された不具合等については必要な対策をスピード感をもって実行した。

(2) 施設の警備体制

24時間体制で警備員1名を常駐させ、昼間は施設内巡回を中心とした警備、夜間は警備員室での監視カメラ、中央監視装置などを活用した機械警備を実施した。

(3) 設備の保守管理

設備員2名を配置させ、施設内の空調、機械設備及び電気設備の日常的、定期的な点検管理を実施し、故障の未然防止、故障時の早期修繕に努めた。また、エスカレーター・エレベーターをはじめとした下記の設備機器については、個別に業務委託を実施し、各機器の保守管理に万全を期した。

設備機器名	点検回数	設備機器名	点検回数
昇降設備保守点検	1回/月	自動制御機器・中央監視装置	2回/年
消防防災設備保守点検	2回/年	吸収式冷温水発生機保守点検	6回/年
高圧受変電設備保守点検	1回/月	氷蓄熱ヒートポンプ保守点検	4回/年
自動ドア等保守点検	3回/年	吊物・床機構保守点検	2回/年

(4) 施設の清掃業務

館内清掃は、清掃員3名により日常清掃を実施した。とりわけトイレについては、常に清潔な状態を保つよう心がけた。

また、定期清掃として、フローリング床のワックスがけやガラス清掃などを実施した。

- ・木床洗浄・ワックス塗布 年4回
- ・大理石洗浄 年3回
- ・カーペット洗浄・ガラス清掃 年2回]

屋外清掃は、シルバー人材センターを活用し、施設の玄関口である回廊の清掃、駐車場の草刈り、敷地内里山の下刈り等の管理を実施した。

(5) 環境衛生管理業務

「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づく適切な管理を実施した。

(6) 危機管理体制の整備

来場者の安全確保を図るため、「セラミックパークMINO危機管理規程」に基づき、地震、火災、不審者の侵入、不審物の発見などあらゆる自然災害、事件・事故に関する対応方針を職員等に周知徹底するとともに、火災避難訓練を実施した。また、関係各機関との連携強化を図り、有事の際に的確かつ迅速な対応のできる体制を目指した。

(7) 維持管理経費の節減に向けた取組み

経年劣化に伴う修繕費の増大に対し、設備保守点検などの外部委託費、電気・ガス、水道などの光熱水費、清掃用具・電球類等の消耗品費など、維持管理経費の節減に以下のとおり努めた。

ア 電気・ガス等については、館内空調の温度管理（夏期28度、冬期20度、美術館を除く）の徹底、館内照明の間引き点灯の徹底、滝の弾力的運用等に努めた。

イ 外部委託費のうち、契約期間を長期契約にできるものについては、長期契約を実施し、委託料の節減及び事務手続きの削減に努めた。

ウ 消耗品費については、「必要な物を必要な時に必要な数だけ」を心掛け、無駄の削減に努めた。

(8) 中長期保全計画

中長期に見込まれる施設・設備の不具合の発生に対応するため、継続的な状況把握を行うとともに常に修繕・更新計画の見直しを図り、県との調整を行った。

5 その他

(1) 評議員会・理事会・監事監査等の開催

事業計画及び予算、事業報告及び決算、各種規程の改正等、財団の運営の基本的事項について、理事会、評議員会、監事監査を開催し、審議を行った。

[理事会（2回、書面決議2回）、評議員会（2回、書面決議1回）、監事監査（1回）]

(2) 「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」の開催協力

本年度は特に「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」の開催に伴い、その事務局に参加し、企画から実施までその一部の業務を担当した。

(3) 美術館、飲食施設との定例意見交換会の開催

施設一体となった運営を目的として、イベントの開催状況、施設改善など月1回を目途に定期的な意見交換を行った。